

# 訪問リハビリ周辺業務における リスクについて

ゆきよしクリニック  
理学療法士 島田 悟

# はじめに

在宅での訪問リハビリ業務では、病院や施設勤務では経験することのないリスクが存在する。その内容は大きく訪問リハビリ実施時と訪問リハビリ周辺業務時のリスクに分けることができる。この発表では訪問リハビリ周辺業務時のリスクについて述べる

# 訪問リハビリ周辺業務

A) 車での移動

B) 駐車場の確保

C) 書類の受け渡し業務

D) 事務やCM、他事業所との連絡業務

# 周辺業務でのリスクと対策（対応）

## ①移動中の交通事故

[起こした場合の対応]↓

1. 事故の程度の判断（人身事故or車両事故、器物破損）  
◎人身事故の場合は人命救助が第一
2. 警察への連絡（事故証明書を発行してもらう）
3. 管理責任者への連絡
4. 自動車保険会社への連絡
5. 事故報告書の作成

※事故の責任関係がはっきりしない時は安易に謝罪をしない  
人身事故で加害者となり責任が明らかかな時は迅速な介護  
上司への連絡、入院等の見舞いをすぐに行う

## ②移動中の交通違反(スピード違反等)

[起こさないための対策]



- 日頃からスピードを出さないよう気をつける
- 春と秋の交通安全週間時は特に気をつける
- 晴天の日は白バイに要注意
- 運転中の些細な出来事に注意する
- 利用者や家族が教えてくれることもある

### ③ 駐車場に関するリスク(トラブル)

[起こさないための対策]



- 初回訪問時に本人・家族に確認しておく
- 「あそこ」「あの家の向かいに止めて」といった表現には注意する(実際に確認するのが無難)
- 駐車場の確保が難しい場合には「駐車禁止除外票」の申請を早めに行う
- 積雪に備えてスコップ、長靴を積んでおく

## ④利用者が留守（鍵がかかかっていて応答なし）

[起こった場合の対応]



- こちらから利用者宅に電話してみる
- それでも応答ない場合はCMに連絡し、対応を協議する
- 事務連絡する

## ⑤報告書・計画書、請求書、領収書等の書類を渡す際のリスク

まず認識しておかなければならないこと

- ・「個人情報保護」という観点を持つことが必要
- ・その一方で「情報開示」という時代の流れ



記録の不備・不適切な表現、情報の紛失・漏えいは事業所運営の大きなリスクとなりうる



## 起こりうるリスク(アクシデント)

- 別の利用者の書類を渡す
- 書類を紛失する、渡したかどうかははっきり覚えていない

### [起こさないための対策]



- ・渡す際に必ず名前を確認する
- ・書類を渡した際はメモに記録するなどして忘れないようにする(特に領収書は再発行しないので要注意)

## ⑥悪天候で訪問リハ業務の遂行が困難

- 大雨、大雪、洪水、停電、地震などで訪問することが危険な場合がある

[起こった場合の対応]



- ・無理はしない、ただし利用者、CM、事務に連絡をして了解していただく

# その他のリスク(アクシデント)

- 車の鍵のかけ忘れや窓の閉め忘れ
- 車内物の盗難
- 携帯の紛失
- 時間に遅れる
- 訪問日時の間違い

# リスクのまとめ

- ①移動中の交通事故
- ②移動中の交通違反
- ③駐車場に関するリスク
- ④利用者宅に鍵がかかかっていて応答がない
- ⑤書類文書に関するリスク
- ⑥悪天候によるリスク
- ・その他のリスク(車内の盗難、携帯の紛失等)

◎起きてしまった事故、トラブルに対しては慌てず  
とにかく連絡することが大事